# テキストマイニングツールを 利用した視線データの分析

東京大学大学院工学系研究科 白山研究室 江川陽、樋渡哲郎

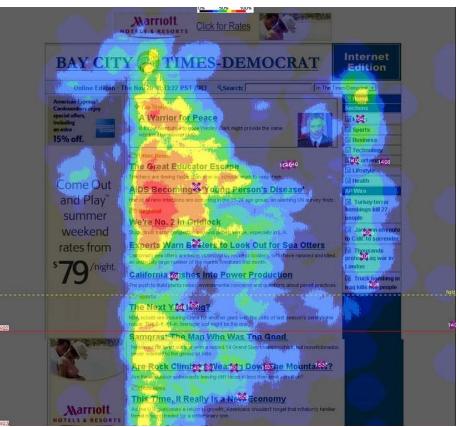
- 背景
- 目的
- 手法
- 実験
- 結果
- 考察
- 結論

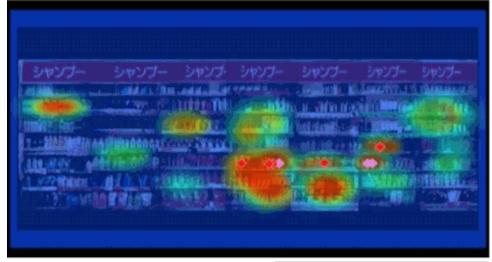
# 口視線分析とは

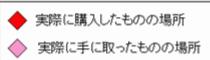
- ✓人間の視線の移動軌跡や分布(視線データ) を計測・分析することにより、人の認知処理を 観察、解明するための手法
- ✓近年,視線計測装置の低価格化と信頼性向上がすすみ様々な分野で利用されている
  - ✓認知心理学
  - ✓マーケティング
  - ✓UIのユーザビリティ評価
  - ✓知識伝承

背景:視線分析の例1

# 注視領域と注視時間の分析(Heat Map表示)







#### Webページのユーザ ビリティ評価

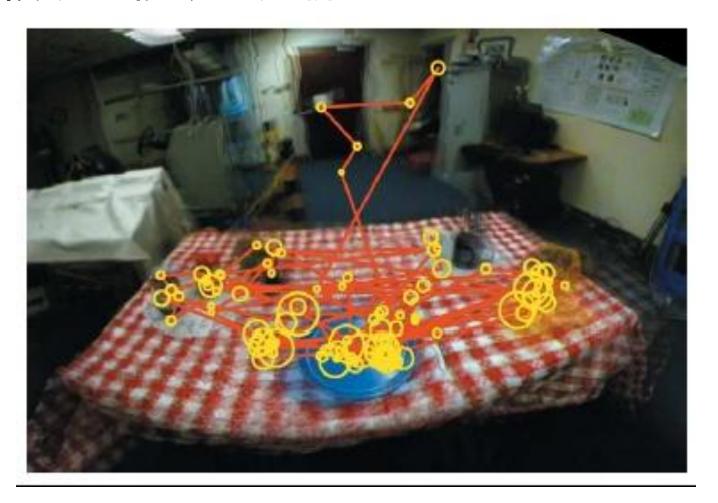
http://www.poynterextra.org/ey etrack2004/index.htmより

#### 商品棚のレイアウト分析

http://www.cross-

m.co.jp/research/eyetracking.html 剝り

#### 注視領域の移動の分析



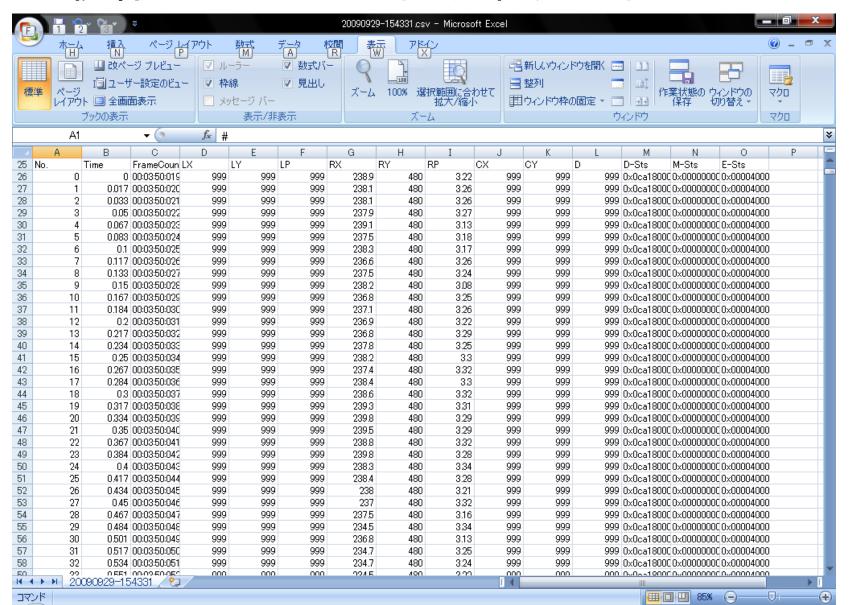
作業時(サンドウィッチ作成)の視線の移動軌跡 Hayhoe, M and Ballard, D(2005)より

- A. 視線データの測定に関する部分
  - (a)キャリブレーションの難しさ
  - (b)測定誤差の発生と推定の難しさ
  - (c)広範囲における視線位置の絶対座標の取得
- B. 視線データの分析に関する部分
  - (d)短時間で大量に得られる視線データの処理の問題
    - ・分析に要する時間. ノイズ処理
  - (e)視線データの停留点形成の難しさ
    - •停留点集合の形成方法が確立していない(Saluvcci et,al.2000)
  - (f)分析結果の客観的評価の難しさ

(大野(2002), Parkhurstら(2002), Cutrell & Guan(2007)等)

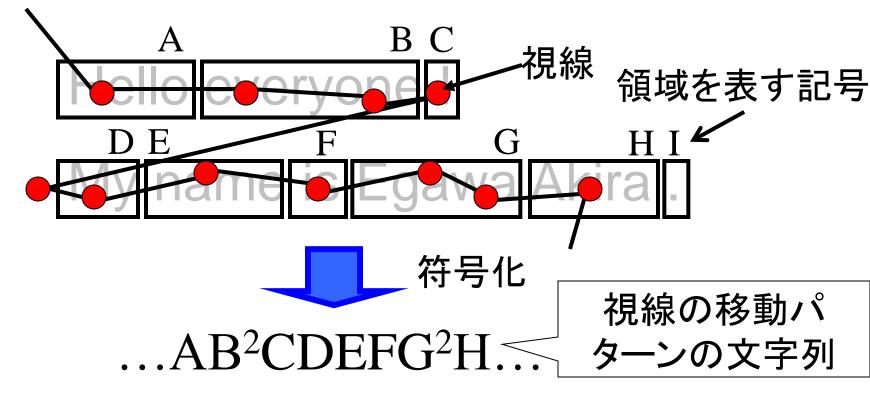
- (g)視線データの時系列分析の難しさ
  - •符号化における領域分割の難しさ

## 生の視線計測データの例(1秒分に満たないデータ)



背景: 視線分析の方法

視線分析の方法(視線の文字列化, 大野2002より)



文字列化された視線データならば、<u>テキスト</u>マイニングの手法が利用可能ではないか。

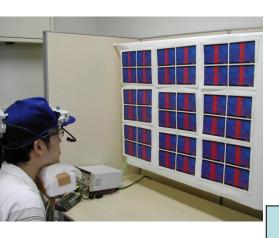
「Text Mining Studio」を用いて文字列化された視線データに対してテキストマイニングの手法の導入を試みる

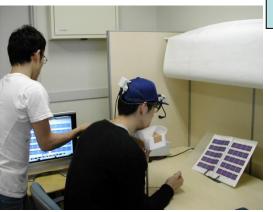
・テキストマイニングを利用した視線分析手法 の有効性を検証する

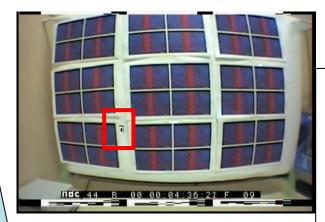
- 1. 視線計測実験の実施
- 2. 計測データの文字列化
- 3. 文字列化された視線データに対して「Text Mining Studio」を利用してテキストマイニング処理をかける

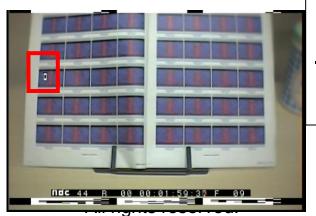
手法:視線計測実験

・被験者に視覚刺激(画像など)を提示し、その際の被験者の視線の動きを計測する







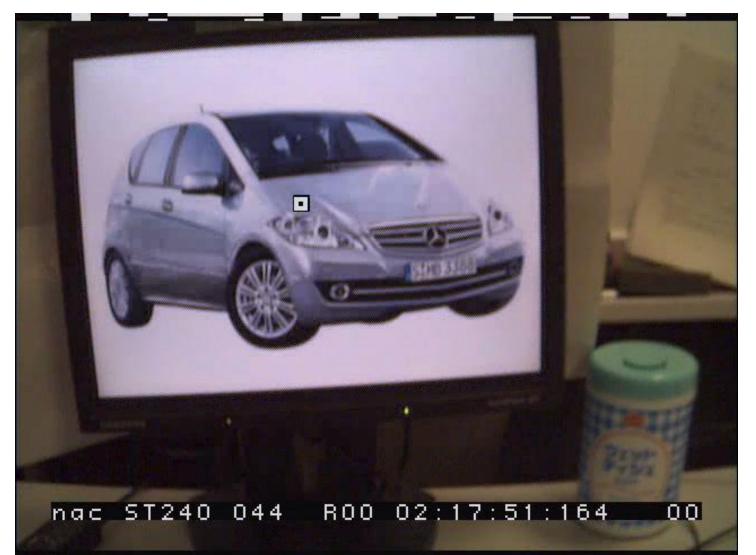


#### 計測されるデータ

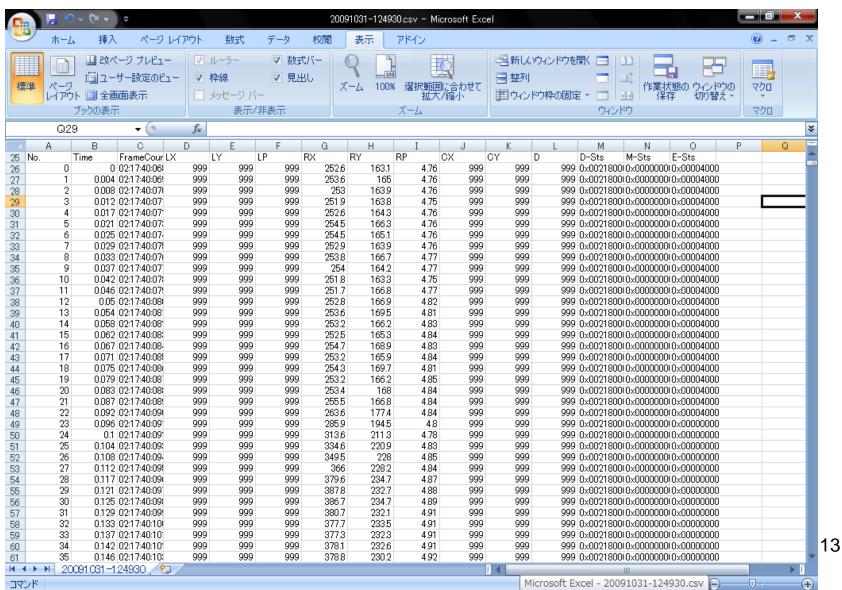
- •視線位置
- -視野における視線の 座標値
- •計測時間
- ー視線が計測された時間

手法:視線計測実験

計測された視野映像(ロマークが計測された視線位置) (クリックで再生)



#### 計測されたデータ(視線位置や時間などのテキストデータ)



1. 対象となる画像を格子に領域分割する. 格子を区別するために領域番号を付与する.

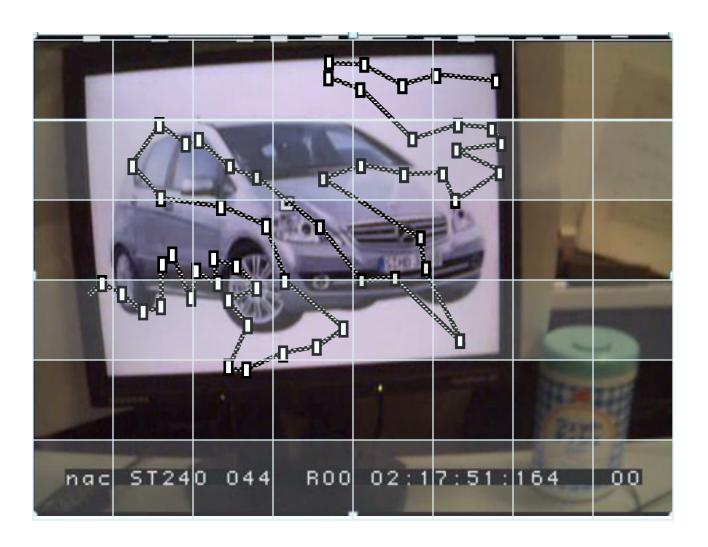
領域 6 番号 8

ST240 044

nac

R00 02:17:51:164

#### 2. 視線の動きを対象画像にマッピングする



#### 3. 視線位置を領域番号で置き換える

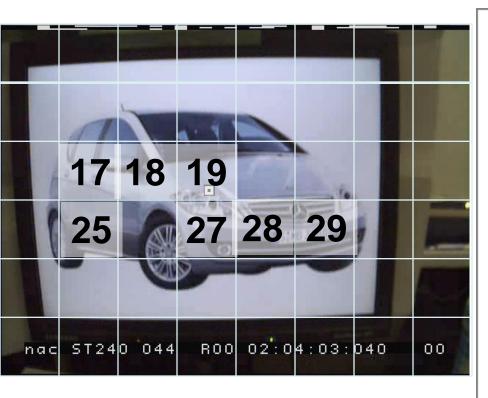


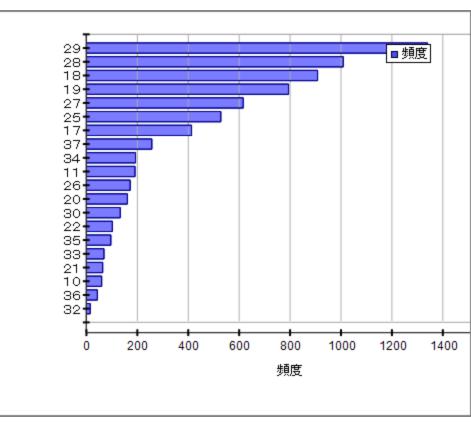
文字列化された視線データ: {5,5,4,4,3,3,4,...』。}

- 領域番号を単語として捉えて、文字列化された視線データを「Text Mining Studio」でテキストマイニングする
- 特に時間属性に着目
  - 頻出単語の抽出
  - (=よく見られた領域の抽出)
  - 時間属性分析
  - (=注視領域の時間変化の抽出)
  - 対応バブル分析
  - ことばネットワーク分析
  - (=時間属性と注視領域の対応関係の抽出)

- 被験者:大学生3名
- ・対象:自動車の写真をPCモニタに表示
- 時間:30秒間
- 視線系計測装置:ナック社EMR-9
  - サンプリングレート: 240Hz
  - 視野映像の解像度:640×480
- 領域分割の大きさ:80×80の格子
  - 視野を48個の格子に分割

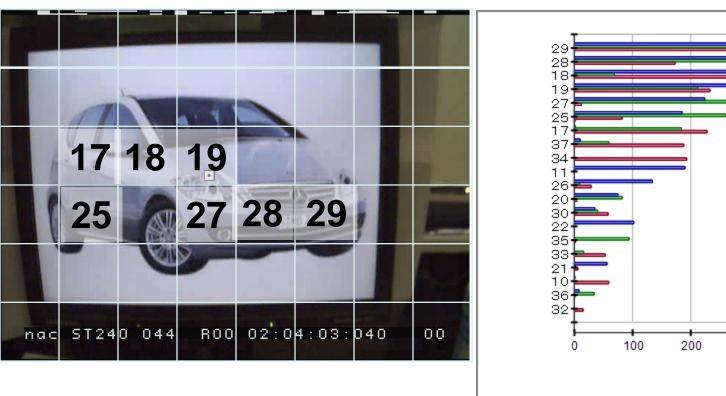
# 頻度分析

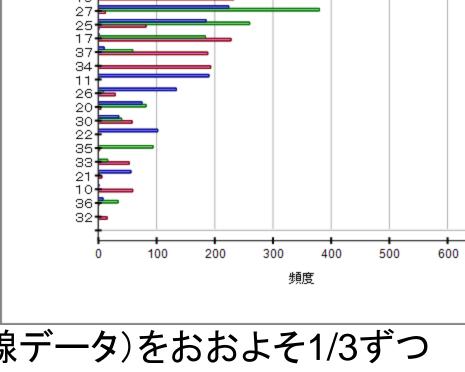




車のマークやサイドミラー、ライトなどの特徴的な部分を含む視野映像の中心部を頻繁に注視している

#### 属性分析(時間区切り)

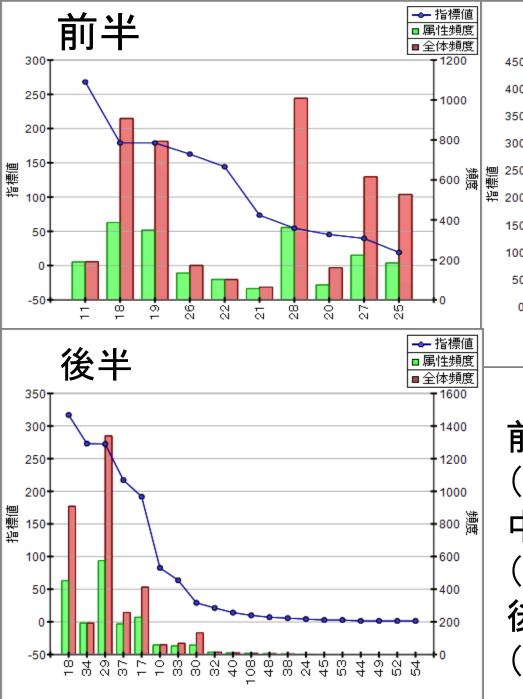


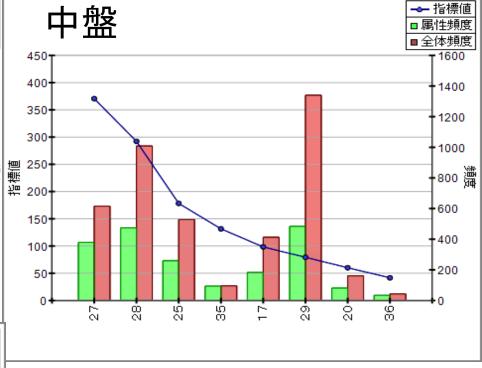


- ・全データ(7200強個の視線データ)をおおよそ1/3ずつ 分割するように属性加工
- ・前半,中盤,後半では注目している領域が異なる
- →時間によって注視領域が変化

1-2400

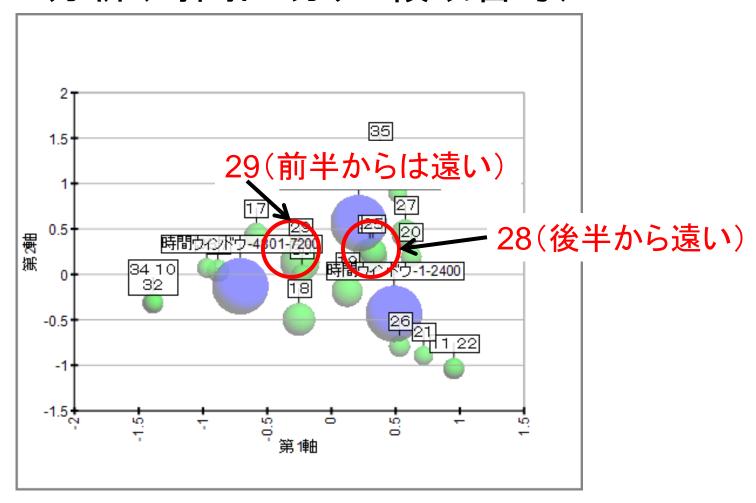
■ 4801-7200 ■ 72001-





前半:サイドミラーの周辺 (主に18,19,28の領域) 中盤:車のフロント部分 (主に27,28,29の領域) 後半:全体的 (主に17,18,29の領域)

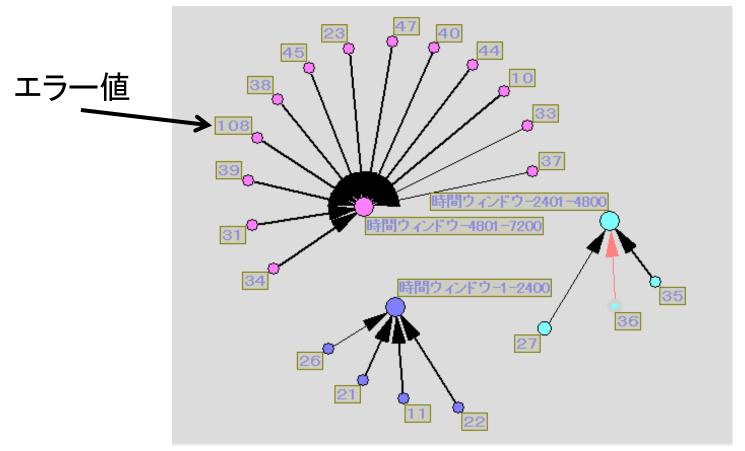
#### 対応バブル分析(時間区切りと領域番号)



属性バブルの間にバブルがいくつか存在している →時間区切りに対してある程度均等に注視している<sup>22</sup>

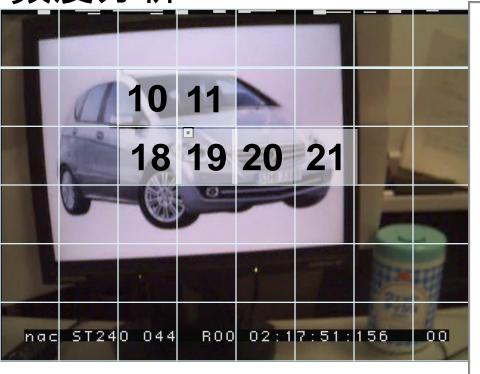
2009年度VMS&TMS学生奨励賞

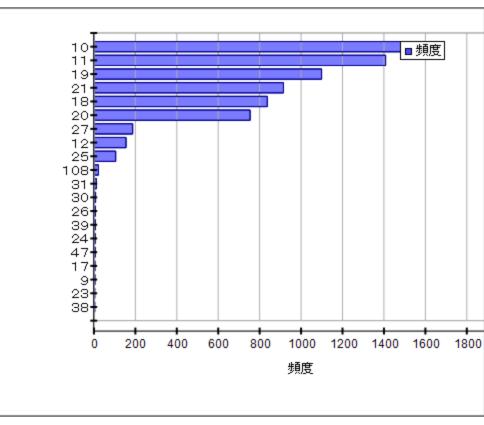
#### ことばネットワーク



-29,28などの頻出注視領域以外が多くネットワークに表れている →頻出領域はどの時間区切りにおいても注視されており、それ以外 の領域は特定の時間区切りで注視されている 結果2:被験者2

# 頻度分析



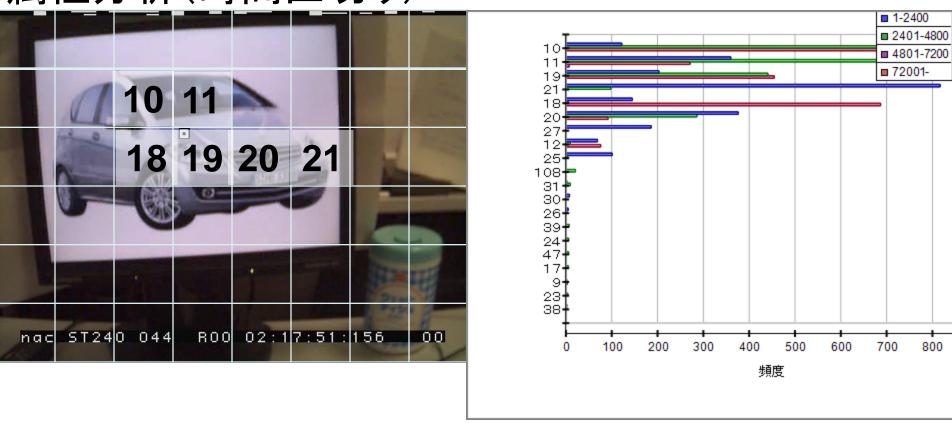


24

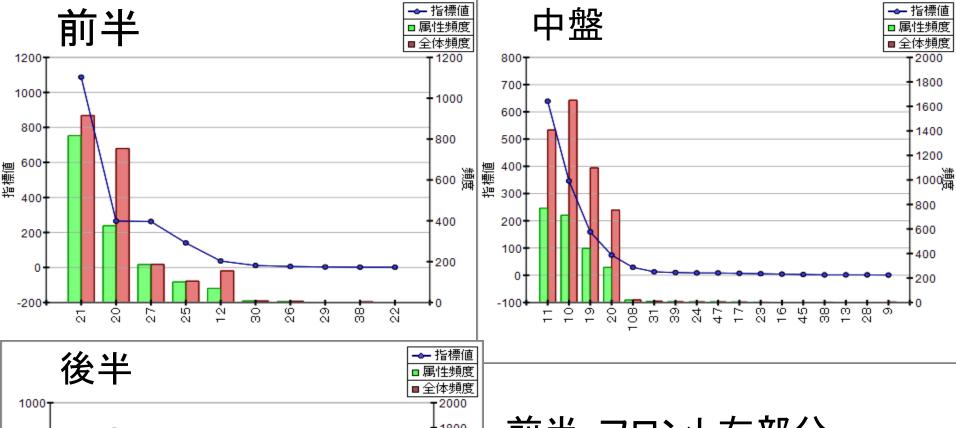
- ・シートや車のフロント部を含む領域を注視している
- ・他の二者に比べて、頻度の分布が急な山形になっている(特定の領域に注視が集中している)

25

# 属性分析(時間区切り)



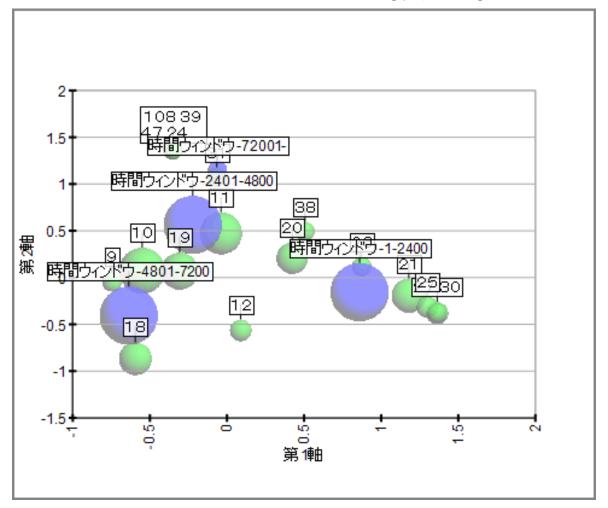
・特定の時間区切りに集中して注視している例:21の領域は前半によく注視され、その他の時間区切りではあまり注視されていない



1800 800 1600 1400 600 1200 指標値 1000篇 800 200· 600 400 0 200 -200 Ó Ó Ó Ñ ത

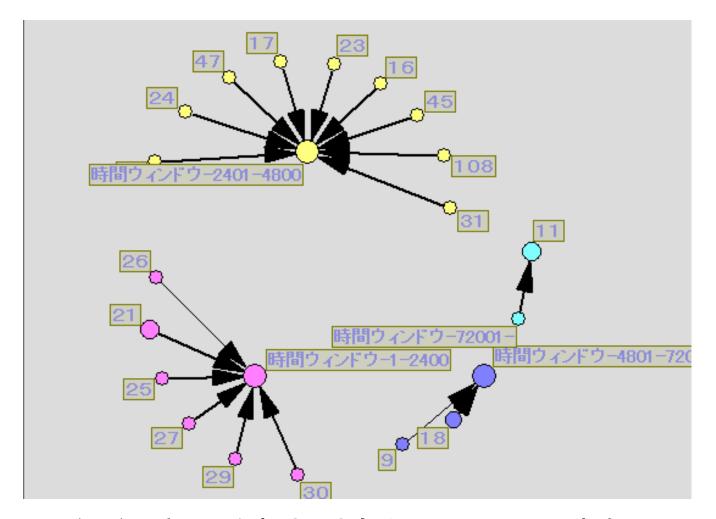
前半:フロント右部分 (主に20,21の領域) 中盤:フロントガラス部分 (主に10,11の領域) 後半:フロント左部分 (主に10,18,19の領域)

#### 対応バブル分析(時間区切りと領域番号)



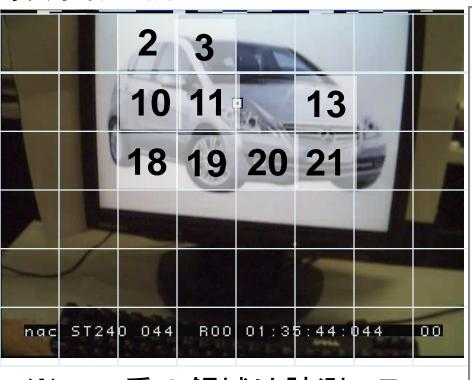
時間ウィンドウ1-2400の属性バブルの周囲に密なクラスタ →特定の時間区切りに注視している

#### ことばネットワーク

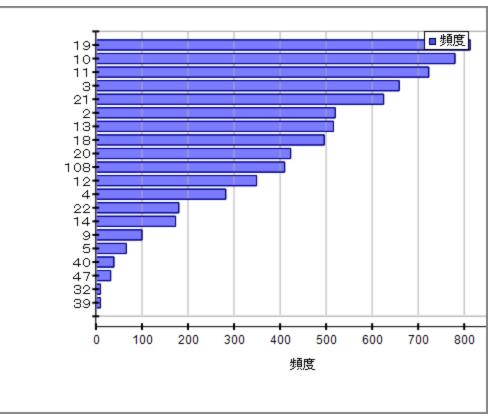


・18や21などの頻出注視領域もネットワークに表れている →これらの領域は特定の時間区切りにおいてよく注視された<sup>3</sup> 実験3:被験者3

# 頻度分析



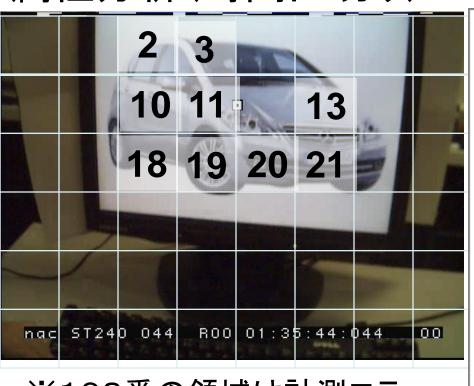
※108番の領域は計測エラー



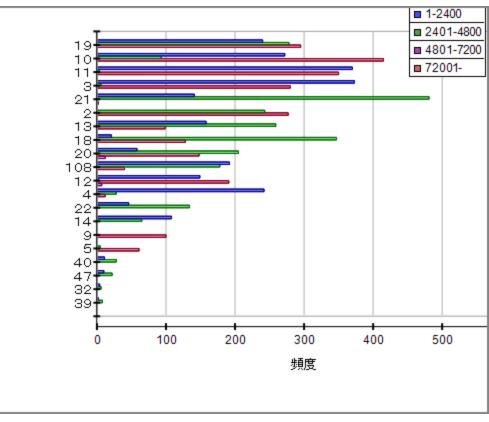
- ・頻出領域(頻度が400以上)が他の二者に比べて多い
- →車全体を注視している
- 計測エラー(108番)が非常に多い

実験3:被験者3

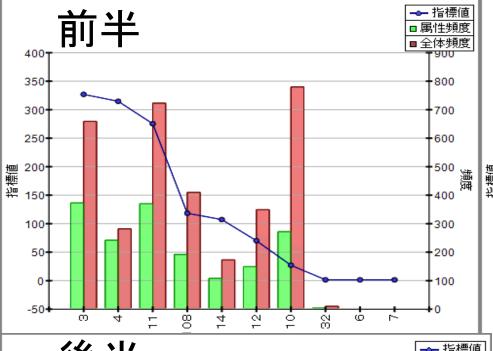
#### 属性分析(時間区切り)

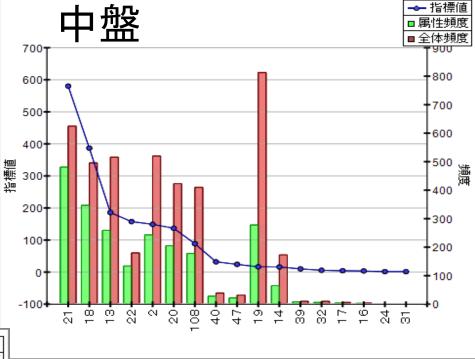


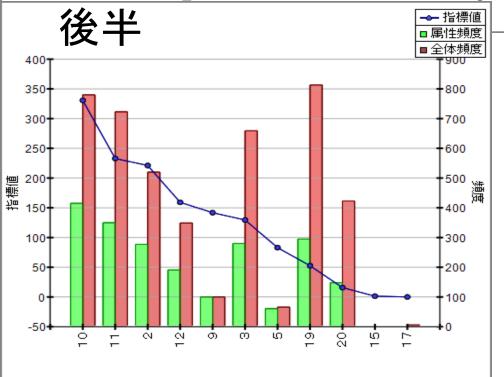
※108番の領域は計測エラー



- 中盤に頻度が突出している領域がいくつかある例:21,18などの領域
- →特定の時間区切りに特定の領域を注視している

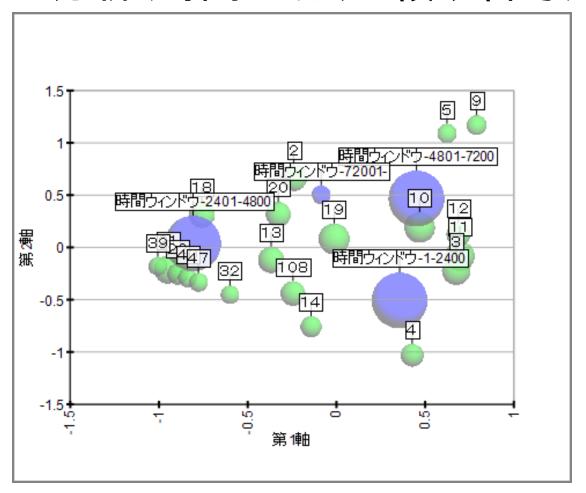






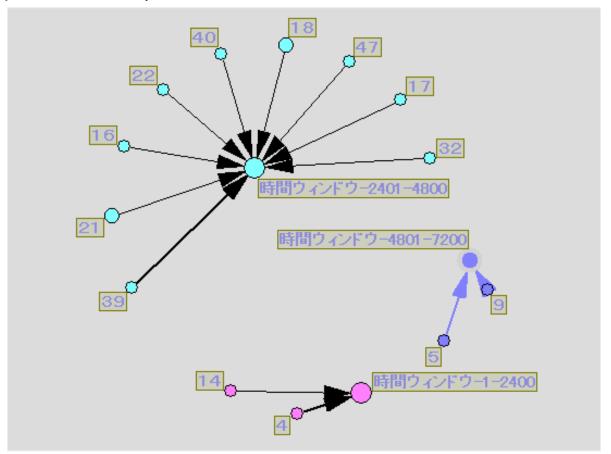
前半:サイドミラー周囲 (主に3,11の領域) 中盤:フロントとタイヤ (主に21,18の領域) 後半:車の左側 (主に10,11の領域)

#### 対応バブル分析(時間区切りと領域番号)



時間ウィンドウ2401-4800の属性バブルの周りに密なクラスタ →この時間区切りに特定の領域が頻繁に注視されている 32

# ことばネットワーク



ネットワークのノードが他の二者に比べて少ない →頻出注視領域以外の多くの領域も時間区切りによらず注視された

- 三人の被験者がいずれも車の領域を中心に 注視していた
- 被験者1は他の二者に比べて時間区切りによらず比較的まんべんなく注視していた
- ・被験者2は、車のフロント部を中心に注視し、 特定の時間区切りに特定の領域を注視して いた
- 被験者3は結果的に車の領域全体をまんべんなく注視していたが、特定の時間区切りに特定の領域を注視していた

- 分析が難しい視線データを文字列化することにより、「Text Mining Studio」でテキストマイニング処理を試みた
- ・特に時間属性に着目し、被験者ごとの注視 行動の分析を行った
- 各被験者の注視行動の違いがテキストマイ ニング手法により顕在化させることに成功し た

- 今後は、視線データを「1」、「2」などの単純な単語の連なりでなく、「サイドミラー」、「ロゴ」などの意味をもった単語からなる文字列に変換して分析したい
- 今回は「Text Mining Studio」のごく一部の機能しか活用できていないので、今後はより高度な機能を活用したい

• 「Text Mining Studio」を快く貸してくださった 株式会社数理システム様, ならびに実験に協力していただいた被験者の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます